

アメリカザリガニの特徴

- 成体は全長が約10cmで、赤みが強い体色です。幼体の体色は淡い茶褐色であり、ニホンザリガニと間違いやすいです。
- 温度が高い水や汚れた水でも生きられるため、河川や湖沼、ため池、水田や用排水路など、様々な水域に生息しています。
- 繁殖力が強く、食欲が旺盛で、水草、トンボのヤゴ、オタマジャクシ、小魚など何でも食べます。



※アメリカザリガニは「条件付特定外来生物」に指定されています。詳しくはこちら➡
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html>



アメリカザリガニの生活史



※表の生活史は、農林水産省が実施した実証調査の全国データから得られた事例です。

幼体

成体

稚ザリガニ

繁殖期が長く爆発的に増殖

交尾

抱卵

抱稚仔

卵は最大約900個!

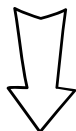
水田の落水とともに水路に集まった大量のアメリカザリガニ

写真: 中田和義教授提供 (岡山大学学術研究院)

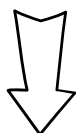
アメリカザリガニの日本への持ち込みと国内での広がり

アメリカザリガニは、1927年にアメリカから持ち込まれて以降、日本各地の河川や湖沼のほか、ため池や水田、用排水路など農村地域を中心に広く分布しています。

1927年、アメリカから日本に、ウシガエル(食用ガエル)の餌として20匹程度のアメリカザリガニが持ち込まれる。



飼育池からの逃げ出しや放出により日本各地に広がり、北海道や沖縄でも分布を広げている。



現在、全国にいる個体は全て、当時持ち込まれた個体の子孫とされており、強い繁殖力と生存力がうかがえる。



※本図の詳細は「農村地域におけるアメリカザリガニ防除の手引(以下「手引」)」の第2章参照

日本国内に生息するザリガニの種類

国内には4種類のザリガニが生息しています。在来種は「ニホンザリガニ」1種のみです。

ニホンザリガニ
(在来種)



分布: 東北以北
生息環境: 湖沼・河川緩流域
成体サイズ: 約8cm(全長)
写真: 中田和義教授提供
(岡山大学学術研究院)

アメリカザリガニ
(条件付特定外来生物)



分布: 日本全国
生息環境: ため池や水田、湖沼・河川緩流域、用排水路等
成体サイズ: 約10cm(全長)

ウチダザリガニ
(特定外来生物)

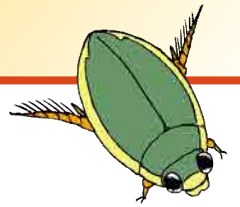


分布: 主に東日本
生息環境: 冷水性の湖沼や河川
成体サイズ: 約15cm(全長)

ミステリー
クレイフィッシュ
(特定外来生物)



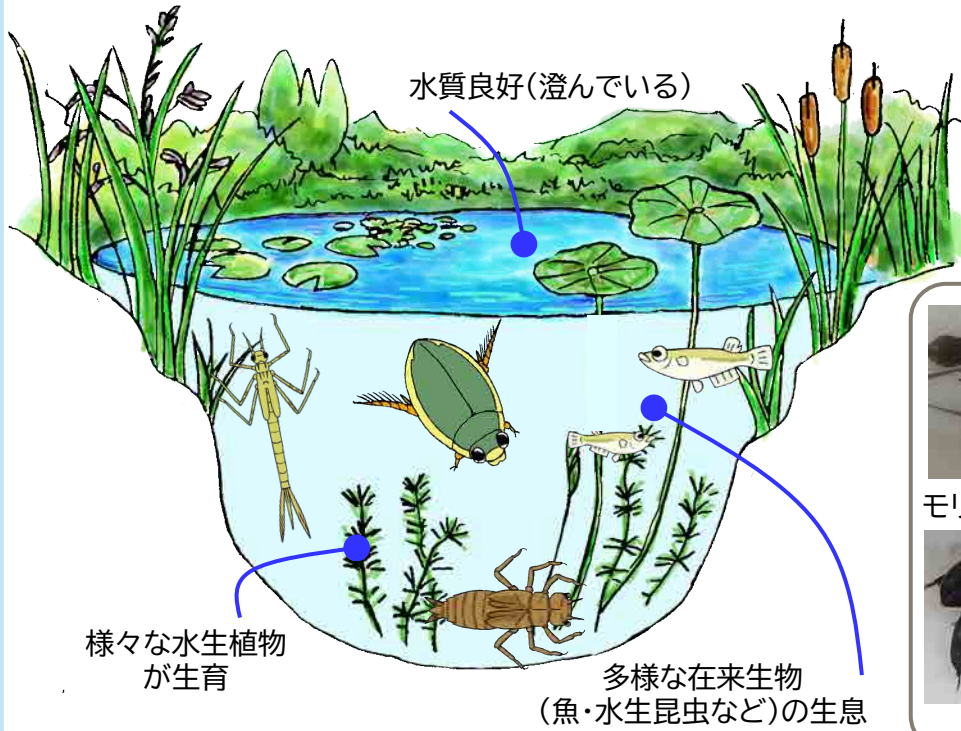
分布: 沖縄県
生息環境: 沖縄県では池で確認
成体サイズ: 最大約10cm(全長)
写真: (一財)自然環境研究センター提供



アメリカザリガニが生息しているため池では、水生植物や水生昆虫等が減り、水が濁るなど生態系や水質への悪い影響がみられています。

アメリカザリガニが生息していないため池

多様な生物と豊かな自然環境の存在



水生植物が生育し、水は澄んでいる



モリアオガエル(幼生)



アカハライモリ



ゲンゴロウ類

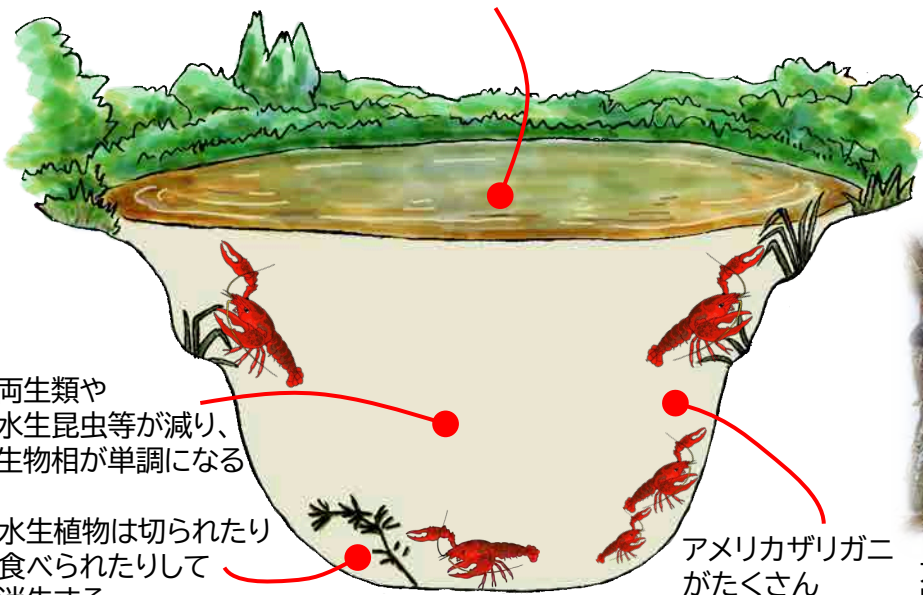


トンボ類のヤゴ

アメリカザリガニが大量に生息しているため池

生物の営みを感じられない貧弱な環境

アメリカザリガニの徘徊や巣穴を掘ること等により底質が巻き上がり、水質が悪化(濁る)



一年中濁っていて水草は見られない



大量のアメリカザリガニによりマツモムシなど限られた水生昆虫のみが生息

影響の実例

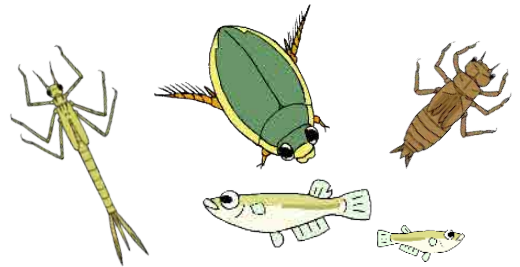
下の写真は、「東北地域の小規模なため池」を、時期を変えて同じ角度から撮影したものです。アメリカザリガニが生息していなかった平成24(2012)年当時とその後の写真を比べると、**ため池の様相が劇的に変化**していることが分かります。

あなたがお住まいの周辺のため池でも、こんな兆候はありませんか？

平成24(2012)年8月撮影



以前は緑豊かなため池の様相でした。ハスは地元の方が自ら植えたものです。



元は様々な種類の水生物が生息

令和3(2021)年7月撮影



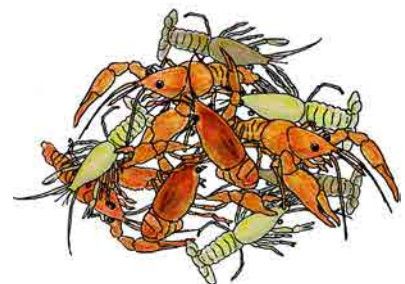
約10年が経過して、ため池の様相は変わりましたが、地元の方は変化の前兆に全く気付かなかったとのこと。



令和6(2024)年6月撮影



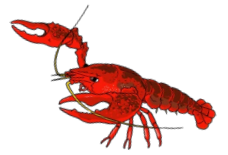
さらに3年が経過して、ため池の様相は急激に変わりました。



気付けば、水は濁り、水生植物は姿を消し、ため池の中はアメリカザリガニだらけ…。

03 アメリカザリガニによる農業関係の被害

- アメリカザリガニは水際に深い巣穴を掘ります。このため、生息密度が高くなると多くの巣穴ができ、ため池の堤体がもろくなり崩れることがあります。
- また、水田の畦(あぜ)に穴を開けて漏水を引き起こし、水田の水管理に影響を与えるほか、放っておくと畦が崩壊することもあります。



巣穴による「ため池堤体の損壊」の事例(山口県山口市)

ため池



ため池の安全性の低下

①アメリカザリガニの増殖、堤体を穴だらけに！

②巣穴が重なって空洞化、堤体がえぐられる!!

③えぐれの上側が崩落、堤体が弱体化!!!



巣穴による「畦崩壊」の事例(愛知県安城市)

水田周り

①アメリカザリガニが掘った巣穴からジワジワと漏水

②水が巣穴に流入し水道が徐々に拡大

③畦がもろくなり、降雨により増水した水の水力で畦と水路壁が崩壊!!



初めはしみ出す程度

(写真: 愛知県農業総合試験場提供)



(写真: 愛知県農業総合試験場提供)

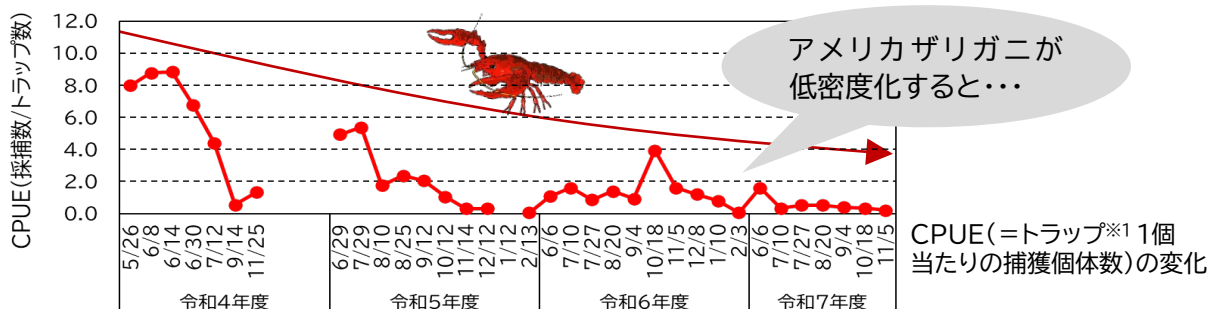
駆除を継続することで、生きものの種数や個体数が増加！

- アメリカザリガニは一度侵入してしまうと根絶が非常に難しい外来種です。高密度になるほど駆除にコストがかかります。早い段階で駆除に取り組み始めることが重要です。
- 山口市の小規模なため池では、約3か年にわたる駆除活動により、アメリカザリガニの低密度化が進むことで、トンボ類や両生類など様々な生物の回復が確認されました。
- 駆除を継続することで、農業関係の被害の減少と合わせて、様々な「水生動植物の回復」や「水質(濁り)の改善」も期待できます。

駆除の進行状況とその後の効果

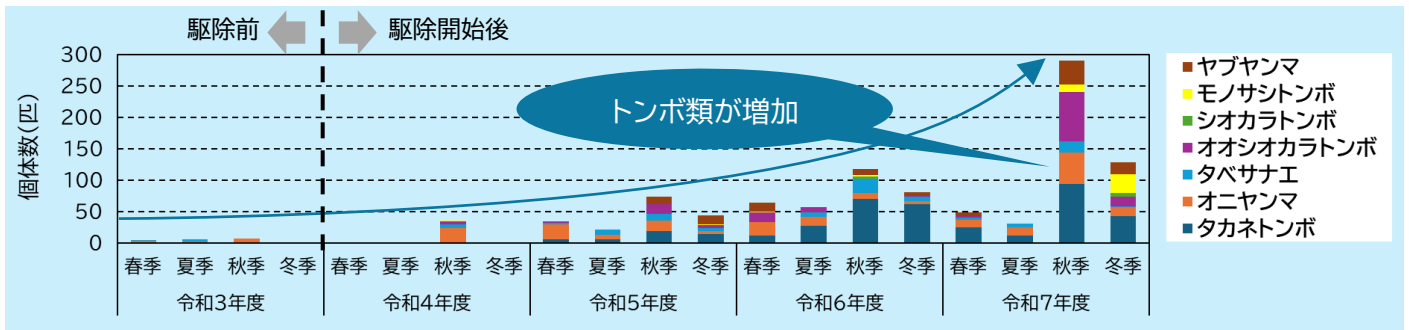
※1 トラップとは、トラップ式漁具(p7-8参照)を指す。水域に一定期間設置し、その間に捕獲された個体を回収する。

●アメリカザリガニ駆除の進行状況※2

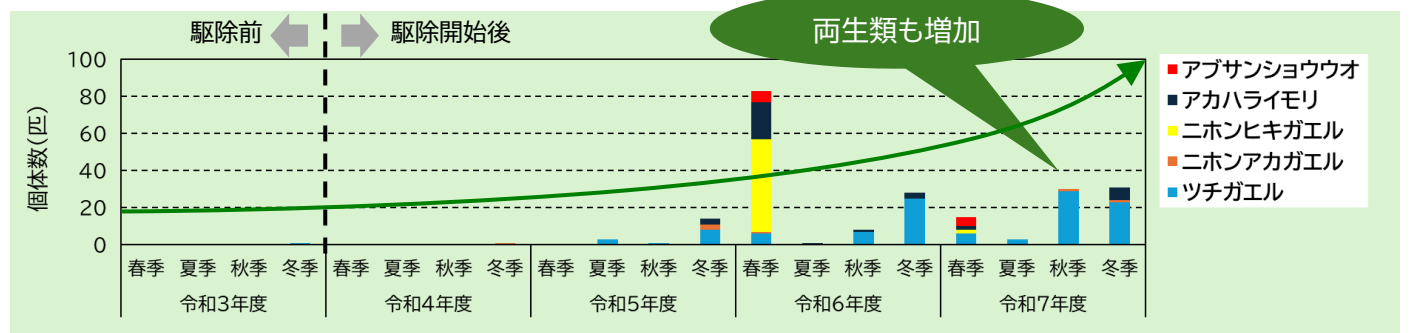


水生動植物の種数や個体数が徐々に回復します！

●トンボ類(水底生活型)の種数・個体数の経年変化※2



●両生類の種数・個体数の経年変化※2



幼虫



タカネトンボ

成虫



アカハライモリ



ツチガエル



モリアオガエル

※2 岡山大学未発表データより作成(令和8(2026)年3月現在)